

〔初春どり重量野菜の端境期に対応した品質安定化技術〕

初春どりダイコンの品種比較

野口 貴・蛭木朋子・海保富士男・徳田真帆
(園芸技術科)

【要 約】初春どりとして期待の持てる品種は「YR春の浦、春やよい2号、春づまり、桜の砦」であるが、寒害を抑制するための栽培条件の検討が必要である。

【目 的】

ダイコンは都内における主力の野菜品目であるが、2～3月の初春は低温や急激な気温上昇により良品生産が難しく端境期となっている。この端境期の生産安定を図るため、初春どりダイコンの品種比較を行い、今後の資料とする。

【方 法】

「YR春の浦」以下28品種を2021年10月14日に黒マルチ9230（千鳥）を敷設した幅70cm（通路70cm）の東西方向のベッド（東西畝）に1穴3粒ずつ播種した。播種直後から寒冷紗（ビニロン製、目合い1mm）でトンネル被覆をし、11月29日からは、さらに「ユーラックカンキ2号」を併用（二重被覆）した。間引きは11月11日とし、1穴1本に調整した。肥料は窒素、リン酸、カリを10aあたり分量でそれぞれ15、25、15kgを全量基肥として施用した。収穫および調査は翌年の3月8日に行った。

【成果の概要】

1. 栽培期間の日平均気温は、10月下旬で低く、その後、平年を上回る時期もあったが、12月中旬～2月下旬にかけて低く推移した（図1）。一方、3月上旬は急激に高くなった。
2. 低温等による枯死株の割合は品種により大きく異なったが、ベッドの南側と北側でも異なった（表1）。一方、抽苔については列の南北で発生株率には大差なかった。28品種のうち、南の列で枯死がみられた品種、北側の列で3割を超えて枯死した品種および抽苔株率が3割を超えた品種はその後の調査の対象外とした。
3. 枯死株率や抽苔株率の少なかった7品種の収穫後の根の状態をみると、どれも3Lサイズ（1,500～1,800g）以上でばらついていて（表2）。その中でも「桜の砦」は揃い、「春宴」は不揃いであった。低温による障害は、地中部ではなく抽根部に発生し、主な症状は、内部褐変、肩（首）の褐変、表層の割れ（皮剥け）、表皮の変色などであった（図2）。内部褐変は「やよい美人」で著しく、他の6品種はないか、目立たなかった。肩の褐変はどの品種にもみられたが、「桜の砦」でやや少なかった。表層の割れは品種間差が大きく、「やよい美人、春づまり」で目立たず、「春おとめ」で著しかった。表皮の変色はどの品種にもみられたが、「春やよい2号」ではほとんど目立たなかった。
4. 以上の枯死株率や抽苔株率、抽根部内部の褐変、表層の割れなどの障害の程度、揃いを考慮すると、「YR春の浦、春やよい2号、春づまり、桜の砦」が初春どり用として期待のできる品種である。

【残された課題・成果の活用・留意点】

今回選定した品種を用い、障害（寒害）抑制のための栽植条件等を検討する。

表1 ダイコン28品種の枯死株率と抽苔株率

品種	枯死株率 (%) ^a		抽苔株率 (%)
	南列	北列	
1. YR春の浦 (カ) ^b	0	13	0
2. YR寒ざくら (カ)	0	57	100
3. 冬の浦総太り (カ)	14	14	83
4. 春の守 (サ)	13	14	0
5. 冬馬力 (サ)	71	100	0
6. 冬みね2号 (サ)	0	100	71
7. 冬みねセブン (サ)	0	57	93
8. 与作 (中)	71	86	100
9. 春おとめ (中)	0	29	0
10. 春やよい2号 (中)	0	14	0
11. 青づまり (中)	43	71	75
12. 春づまり (中)	0	13	21
13. 晩抽春づまり (中)	14	29	0
14. ながはる (中)	43	100	0
15. 冬大将3号 (中)	71	86	50
16. 冬大将エース (中)	14	0	100
17. 春慶 (ナ)	14	29	0
18. 桜の砦 (ナ)	0	29	0
19. 三太郎 (タ)	14	43	50
20. 幸誉 (ヅ)	0	43	21
21. 夢誉 (ヅ)	14	57	8
22. 初誉 (ヅ)	29	57	47
23. 豊誉 (ヅ)	14	86	25
24. やよい美人 (大)	0	14	0
25. 春宴 (雪)	0	14	0
26. 冬侍 (雪)	71	86	100
27. 富美勢 (渡)	29	29	0
28. お徳 (渡)	43	71	0

a) 南北畝の北側, 南側の列を分けて調査.

b) 種苗メーカー;カ:カネコ種苗, サ:サカタのタネ, 中:中原採種場, ナ:ナント種苗, タ:タキイ種苗, ヅ:ヴィルモランみかど, 大:大和種苗, 雪:雪印種苗, 渡:渡辺農事

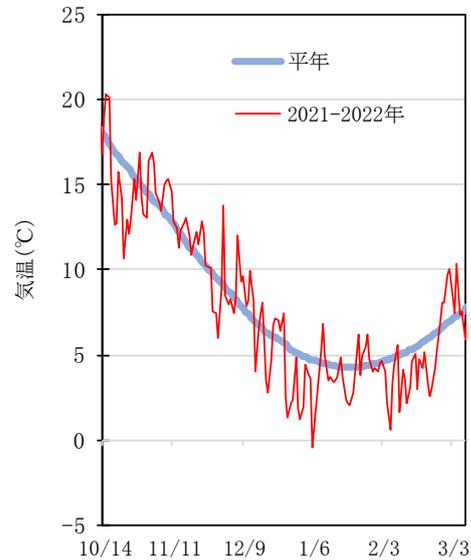


図1 栽培期間の日平均気温の推移

表2 3月どりダイコン7品種の品質(2022年3月8日)

品種	根重		根長		根径		抽根部の障害の程度 ^a			
	(g)	CV	(cm)	CV	(cm)	CV	内部褐変	肩の褐変	表層の割れ	表皮の変色
1	1,759	33.9	44	16.0	8.4	10.3	-	++	++	+
9	1,839	29.6	42	11.3	9.5	7.1	±	++	++++	++
10	1,988	34.1	43	12.8	9.2	10.5	-	++	++	±
12	2,083	30.8	41	12.1	9.6	11.8	-	++	±	+
18	1,889	21.9	43	7.4	8.8	6.5	+	+	+	++
24	1,778	26.3	38	8.8	10.4	13.5	+++	++	-	+
25	2,130	44.8	43	16.6	9.2	14.5	-	++	++	+

a) 障害の程度は図2を参照



図2 抽根部の生理障害(寒害)

障害の程度;++++ (甚)~+ (少), ± (微), - (障害無し).